

## ジュラシック・トーク #2

ラフマニノフの「交響曲第2番」の短縮版

最近、往年の大指揮者、ウィリアム・スタインバーグとピッツバーグ交響楽団が、35mm マグネティック・フィルムによってコマンド・レーベルに 1961 年から 1968 年にかけて録音した一連のアルバムが、ドイツ・グラモフォンによって CD 化されました。その中に、今練習しているラフマニノフの「交響曲第2番」があったので、聴いてみました。

さすがに、録音の古さを感じさせない素晴らしい録音でしたが、この音源の演奏時間がトータルで 46 分 20 秒しかないというのが気になります。普通、この曲は 1 時間近くかかるはずなのに。

そこで、はたと思いだしたのが、この曲は以前は、本来のスコアを少しカットした版で演奏されていた習慣があった、ということです。



(←) これは、1973 年にアンドレ・プレヴィンがロンドン交響楽団と録音した、彼にとってはこの曲の 2 度目の録音なのですが、その 1 回目の 1966 年には、世の中には「カット版」による楽譜しかなかったもので、それで演奏していたそうですね。それを、ラフマニノフが本来書いた形で初めて録音した、というのが、このアルバムだったのです。ですから、スタインバーグがこの録音を行った時点では、その「カット版」以外の選択肢はなかったのですね。

話には聞いていましたが、その現物を聴くは初めてなので、この際ですからどの程度のカットが行われているのか、確かめてみることにしました。

### 第 1 楽章

- ・ 71 小節と 72 小節まで 2 小節間（これだけは、ラフマニノフ自身が指示をしたのだそうです）
- ・ 189 小節から 194 小節まで 6 小節間
- ・ カッコ 1（2 小節）を飛び越える。つまりリピートは行わない
- ・ 285 小節から 298 小節まで 14 小節間
- ・ 363 小節から 378 小節まで 16 小節間
- ・ 405 小節から 412 小節まで 8 小節間
- ・ 496 小節から 505 小節まで 10 小節間
- ・ 510 小節から 513 小節まで 4 小節間
- ・ 526 小節から 545 小節まで 20 小節間（さすがに、これは違和感があります）

計：80 小節/570 小節(14.0%)

## 第2楽章

- ・ 370小節から437小節まで68小節

計：68小節/532小節(12.8%)

## 第3楽章

- ・ 57小節から64小節まで8小節間
- ・ 67小節から74小節まで8小節間
- ・ 109小節から131小節まで23小節間

計：39小節/170小節(22.9%)

## 第4楽章

- ・ 85小節から106小節まで22小節間
- ・ 344小節から419小節まで75小節間

計：97小節/573小節(16.9%)

## 全曲

計：284小節/1,845小節(15.4%)

ということでした。確かに、この曲は長すぎると感じる人は多いでしょうが、作曲家にしてみれば必要だからここまで長くしたのでしょうから（繰り返しにも、意味があります）、やはりこのカットは暴拳というほかはありません。つまり、これが行われたころには、まだブルックナーなども普通に短縮版で演奏されていたはずですから、そんな時代だった、ということなのでしょう。